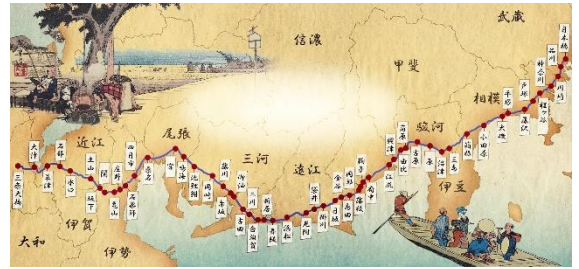


## 寅さん歩 その19

### バーチャルウォークで 東海道を歩くー3



平野 武宏

「バーチャルウォークで東海道を歩く」は毎日の散歩などで歩いた距離を累計してFWAのHP「YR・四季の道」に掲載の東海道五十三次のコースシートの1マス2kmを塗りつぶして進みます。今回は鳴海宿から石薬師宿まで歩きました。各宿場は歌川広重の浮世絵や写真（いずれも無料画像）、宿場の話題などを紹介します。各宿場については八柳さんからいただいた「完全東海道五十三次ガイド（東海道ネットワークの会）」を参考にしています。

#### [庄野宿]

2023年12月27日庄野宿（三重県鈴鹿市）（江戸から400km）に到着しました。



写真左は「庄野 白雨」です。白雨とは夕立です。斜めの線ではなく横なぐりの激しい雨を表し、背景の竹やぶの墨の黒さを3段階に変えて分けて奥行きを表現しています。急な雨に打たれて道を急ぐ人々の姿を躍動感あふれる筆致で捉えています。

庄野周辺は鈴鹿サーキットで自動車レースが開催される週には、宿をとることが難しく、料金も特別料金になることが多いそうです。

#### [亀山宿]

2023年12月30日亀山宿（三重県鈴鹿亀山市）（江戸から408km）に到着しました。写真下は「亀山 雪晴」です。大名行列が急な坂道を進み、行く手には亀山城がそびえています。夜の雪景色を描いた「蒲原」とは対象的に朝焼けの雪景色を描いています。



写真下左は江戸中期以来の名菓「亀の尾」です。ぎゅうひで餡をくるんだ小ぶりの菓子です。写真下右は亀山ろうソクです。和ろうソクの他、各種ろうソクがあり、お土産のプレゼントに手ごろな各種ろうソクを販売しています。



## 〔関宿〕

2023年12月31日関宿（三重県亀山市）（江戸から414km）に到着しました。関宿は鈴鹿の関があったところで古い町並みが保存されています。又、伊勢別街道との分岐点で、お伊勢参りの人々で賑わいました。地蔵院のお地蔵さんは「振袖着せて奈良の大仏さん婿にとろう」と馬子唄に唄われるほど美しいことで評判だそうです。写真下は「関 本陣早立」です。昔、鈴鹿の関が置かれていたのが地名の由来です。本陣とは公家や大名が宿泊する規模の大きな宿です。大人数が移動する大名行列は夜明け前から出発の準備をしています。



関宿の名物うまいものは「関の戸」（写真下左）と「志ら玉」（写真下右）です。関の戸は江戸時代の寛永年間創業の深川屋が今に伝える関宿の銘菓でこし餡をぎゅうひでつつみ、和三盆をまぶした上品なお菓子です。志ら玉は餡入りの白玉団子で旅人の茶うけにとして江戸の昔から親しまれた関宿の銘菓です。



## [坂下宿]

2024年1月2日坂下宿（三重県亀山市）（江戸から420km）に到着しました。坂下宿は鈴鹿峠越えを控えた宿場です。かつては上り下りの旅人で賑わい大きな旅籠が軒を連ねていました。街道沿いにある筆捨山とはあまりの素晴らしい景観に、絵師も筆を捨てたので、この名前が付いたといわれるところです。



写真左は「阪之下 筆捨嶺」です。鈴鹿川をはさんで筆捨山を望む茶屋を描いています。荷物の天秤棒に腰掛ろうとする人、一服しながら眺める人、思い思いに絶景を楽しんでいます。

## 〔土山宿〕

2024年1月5日土山宿（滋賀県甲賀市）（江戸から430km）に到着しました。

「坂は照る照る鈴鹿は曇る あいの土山雨が降る」と鈴鹿馬子唄に唄われる土山宿は、近江五宿の東端にあつて鈴鹿峠を控え、また多賀大社への御代参街道の分岐点として賑わいました。



写真左は「土山 春之雨」です。土山は険しい鈴鹿峠を下った先の宿場です。雨で水かさを増して流れるのは田村川です。春の雨の中を大名行列が静かに進みます。庄野のダイナミックな雨の表現とは対象的です。

土山宿の名物うまいものは「かにが坂飴（蟹坂八つ割飴）」（写真下左）と「いがまんじゅう」（写真下右）です。かにが坂飴は昔、この辺りに出たカニの化け物の伝説から生まれた飴です。米の粉と麦の粉だけでつくられ、春先までは八個の飴を竹の皮でくるめ、それを四つの束にして売り、その後、5月末までは、袋入りで、気温が上がる6月頃から10月頃までは、水飴状のものを売っているそうです。

「いがまんじゅう」はむかし鈴鹿峠越えの際の主食になっていた白団子と山栗を菓子に加工したものです。舌ざわりがよい餅の上に。色づけした米粒がのった愛らしいお菓子です。



今回はここまでとします。次回は京都・三条大橋が待っています。

平野 寅次郎 拝